

KDauto_trans印刷機能強化版 監視付き変換ソフト



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<https://www.kernelcomputer.co.jp>

【概要】

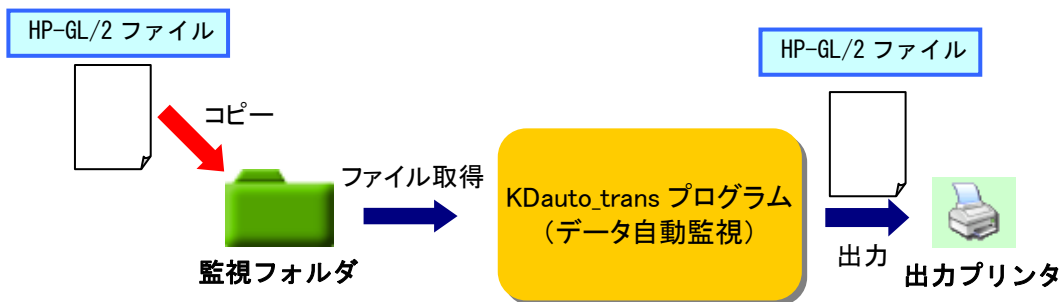
KDauto_trans 印刷機能強化版は KDauto_trans 標準版に DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI, ラスターファイルを印刷する機能を追加した製品となります。

KDauto_trans 印刷機能強化版は監視フォルダを監視して監視フォルダ内にあるファイルを「印刷機能強化プログラム」を使用して印刷を行います。上記の印刷可能なファイルは「印刷機能強化プログラム」で出力プリンタのフォーマットへ変換されて印刷されます。上記以外の印刷不可能なファイルは「データ変換プログラム（別売）」を使用して印刷可能なファイルに変換を行うことで「印刷機能強化プログラム」を使用して印刷を行うことができます。印刷が終了したファイルは出力フォルダへ出力されます。

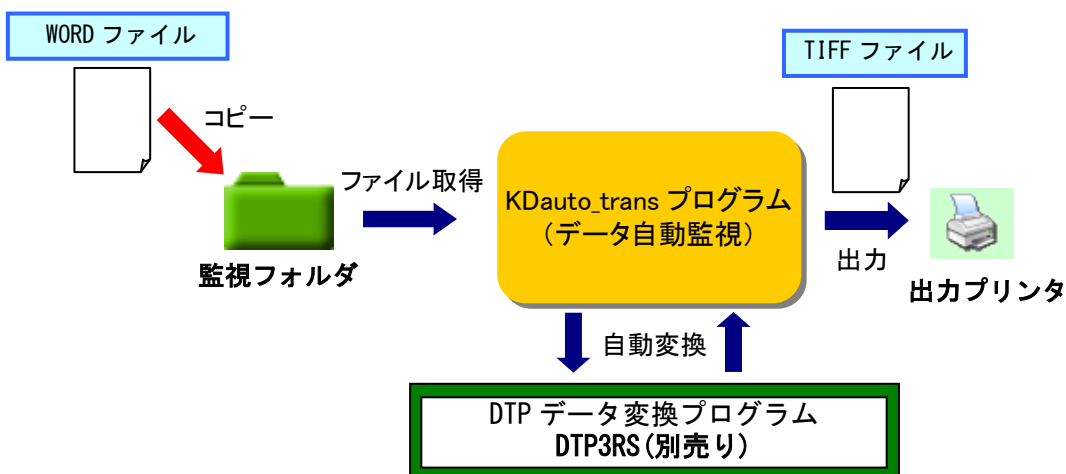
出力フォルダへ出力されたファイルに対して印刷（標準か別売）、FTP 転送を行うことができます。

これら変換、出力、印刷、FTP 転送の設定は監視フォルダ毎に指定することができます。

例 1. HP-GL/2 ファイルをプリンタへ印刷します。



例 2. KD コンバート [DTP3RS] を使用して WORD ファイルを TIFF ファイルへ変換して TIFF ファイルをプリンタへ印刷します。



【特長】

1. DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI, ラスターファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能です。
印刷はプリンタメーカー社作成の Windows プリンタドライバを使用して行います。プリンタドライバ経由で印刷することによって、プリンタドライバ内部で出力プリンタの印刷フォーマットに変換を行います。これによりプリンタメーカー各社の独特の印刷技術を駆使するために KDauto_trans の標準印刷から出力されるより高品質の結果が得られます。(KDauto_trans の標準印刷の場合は KD コンバートシリーズなどを使用して予め出力プリンタのページ記述言語に変換しておく必要があります)
2. ラスターファイルを FTP 出力することができます。この場合はラスターデータを FTP 転送でプリンタに送信しているだけですので、ラスターデータを読み取れるプリンタである必要があります。また、ラスターデータの加工（拡大、縮小、回転など）や印刷方法の指定（用紙選択、両面印刷、丁合印刷など）はできません。
3. 監視ディレクトリ毎に印刷方法を指定することが可能です。
4. 監視ディレクトリを最大 200 個まで指定できます。
監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順かコピー順でピックアップされます。
5. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することができます。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
6. 監視ディレクトリ毎に優先順位の設定が可能です。
優先順位の高い監視ディレクトリの処理を優先して行います。
処理している監視ディレクトリよりも優先順位の高い監視ディレクトリにファイルがコピーされると処理中のファイルの終了後に優先順位の高い監視ディレクトリのファイルを割り込ませません。優先順位の高い監視ディレクトリ内のファイルをすべて処理し終わると割り込まれた監視ディレクトリの処理を継続して行います。
使用例：通常使用する監視ディレクトリより優先度の高い監視ディレクトリを作成しておくことで通常処理に割り込んで処理を行うことができます。
7. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定は KDauto_trans 実行中でも変更することが可能です。(実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います)
8. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
9. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名 + 指定拡張子、日時 (YYYYMMDDHHMMSS) + 指定拡張子、日付 (YYYYMMDD) + 指定拡張子、日付 (YYMMDD) + 指定拡張子、時間 (HHMMSS) + 指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名 + 日時、日付、時間のどれかと組み合わせ + 指定拡張子から選択できます。監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名と日時、日付、時間の間はアンダーバーかハイフンで連結します。
10. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XML フォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
11. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理が NG の時のみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理が NG の場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
12. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由（データ変換は行わない）で印刷を行います。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です（例えば KDprintout for driver など。印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい（別売））。
弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です（例えば lpr.exe など）。使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
13. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用してデータ変換を自動処理することが可能です。殆どの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
(購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
変換結果ファイルが DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI, ラスターファイルの場合は印刷を行なうことが可能です。
14. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して複数のフォーマットからなるファイルを特定のフォーマットのファイルに纏めて出力することができます。
(購入を考えている KD コンバートシリーズまたは購入済みの KD コンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせ下さい)
纏めたファイルが DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2, OFI, ラスターファイルの場合は印刷を行なうことが可能です。
15. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して対になる 2 つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能 KD コンバートシリーズは HPMGHP, XDWMGXDW です。
16. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能 KD コンバートシリーズは HPLAYHP, RSCMP3RS です。
17. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能 KD コンバートシリーズは RSDV3RS, RSDV4RS, RSDV3PST です。

18. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。情報出力可能 KD コンバートシリーズはラスター変換プログラム（RS**）です。ラスター変換プログラムでは Exif 情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
19. 弊社の KD コンバートシリーズ（別売）で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル（拡張子は任意）を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。**(Windows 版のみ)**
20. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大 8 個まで指定できます。フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
21. フォーマットの自動認識（19.）を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。**(Windows 版のみ)**
22. KDauto_trans 印刷機能強化版の環境設定は GUI 画面から設定を行います。

KD コンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDraster コンバート（ベクター/ラスター）を購入して組み合わせることによって DXF/DWG/HP-GL/OFI 等のファイルを TIFF 等のラスターファイルに変換し印刷を行うことが可能になります。
2. KDraster コンバート（ラスター/ラスター）を購入して組み合わせることによって TIFF, JPEG, BITMAP 等のラスターファイルを TIFF, JPEG, BITMAP 等のファイルに変換することが可能になります。
3. DTP データ変換ソフトを購入して組み合わせることによって WORD/EXCEL/PowerPoint/PDF 等の DTP ファイルを TIFF に変換し印刷することや直接自動印刷が可能になります。
(DTP ファイルを印刷可能なソフトが別途必要になります。WORD なら Microsoft Office が必要になります)

【機能一覧】

KDauto_trans 印刷機能強化版の機能一覧です。

| 機能 | OS | |
|---------------------|-----------------------|--------|
| | Windows | |
| | コマンドライン、 常駐プログラム起動 | サービス起動 |
| 印刷機能強化処理 | ○ | ○(※1) |
| 監視ディレクトリ最大数 | 200 個 | 200 個 |
| 監視ディレクトリの優先順位 | ○ | ○ |
| 監視ディレクトリの開始終了 | ○ | ○ |
| 監視ディレクトリの有効無効 | ○ | ○ |
| 階層処理 | ○ | ○ |
| 出力ファイル名(※2) | ○ | ○ |
| 履歴の作成 | ○ | ○ |
| メール送信 | ○ | ○ |
| プリントマネージャで印刷(※3) | ○ | ○ |
| 任意プログラムで印刷(※4) | ○ | ○(※5) |
| KD コンバートシリーズで変換(※4) | ○ | ○(※5) |
| 複数ファイル処理(※6) | ○ | ○(※5) |
| 比較処理(※7) | ○ | ○ |
| レイアウト処理(※8) | ○ | ○ |
| 分割処理(※9) | ○ | ○ |
| ファイル情報出力(※10) | ○ | ○ |
| FTP 転送 | ○ | ○ |
| 環境設定を GUI で行う | ○ | ○ |

※1：印刷に使用するプリンタドライバによっては正常に動作しない場合があります。

※2：Windows 版は監視ディレクトリにコピーされたファイル名+指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名+日付+指定拡張子、日付+指定拡張子の3種類が指定できます。

※3：出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに KD コンバートシリーズの変換処理で変換する必要があります。

※4：別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※5：DTP ファイルを変換・印刷する場合はサービス起動を行えません。

※6：DTP ファイルをラスタファイルに纏める以外の処理を行う場合は、別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※7：Windows 版は HP-GL 同士、HP-GL/2 同士、DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP (HP-GL 同士、HP-GL/2 同士)、XDWMGXDW (DocuWorks 同士) を購入する必要があります。

※8：HP-GL、HP-GL/2、ラスタファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP (HP-GL、HP-GL/2)、RSCMP3RS (ラスタ) を購入する必要があります。

※9：ラスタファイルが分割可能です。

別途 RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST を購入する必要があります。

※10：ラスタファイルが可能です。

別途ラスタ変換プログラム (RS**) を購入する必要があります。

【注意する点】

- Windows の OS を長時間（数ヶ月単位）再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。
長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。
- 印刷機能強化処理は印刷機能強化プログラムとして「KDprintout for Driver」を使用しています。
印刷機能強化プログラムの制限については KDprintout for Driver の簡易マニュアルを参照して下さい。
- KDraster Convert, KDcad Convert, KDprint Convert を使用して変換する場合、一部のオプションは使用できなくなります。使用できなくなるオプションはファイルをまとめて処理するようなオプションで、-BATCH, -MERGE 等です。

【自動起動（Windows 版のみ）】

- スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
- サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
(DTP ファイル(WORD, EXCEL, PDF など)を変換するような場合には使用できません)
- サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応マシン】

indowsXP (32bit/64bit), Windows Server 2003, WindowsVista (32bit/64bit),
Windows7 (32bit/64bit), Windows Server 2008 (32bit/64bit/R2), Windows8 (32bit/64bit),
Windows Server 2012 (64bit/R2), Windows10 (32bit/64bit), Windows Server 2016 (64bit),
Windows Server 2019 (64bit)

【VMware】

VMware 上の WindowsXP (32bit/64bit), WindowsVista (32bit/64bit) で実行可能です。
ネットワークフォルダを使用できません。
VMware 上で動作可能な KD コンバートソフトのみ組み合わせることが可能です。

【価格】

KDauto_trans (印刷機能強化版) : 35 万円 (税抜き)